

両団体は、国道414号沿いの花壇や小坂区公民館前にあるプランターなどに花を植栽し、景観の良い道路環境を整え多くの人の心を和ませてくれています。両団体とも20年以上活動を続けており、長年にわたる活動が評価されての受賞となりました。

8/24 小坂2団体がダブル受賞 道路愛護表彰知事褒章を受賞



「今回の受賞を励みに今後も続けていきたい」と語る受賞者



8/27 28 川下りで自然を満喫 狩野川カヌーフェスティバル開催

残暑の日差しの下、カヌーの魅力を発信することを目的に、狩野川カヌーフェスティバル2011が狩野川さくら公園（寺家区）で行われました。2日間で132人が参加。日常では味わえない狩野川の自然を満喫しました。

初日は、同公園から沼津港まで



1年を通じてカヌーができる狩野川に、県外からも参加者が集まりました。

8/28 忍者のふく こすけ大会開催

障害物競走の人気テレビ番組『SASUKE』の伊豆の国市子ども版『平成23年度第1回こすけ大会』が、長岡体育館で行われました。

当日は、残暑の中、約50人の子どもが参加。園児と児童のコースに分かれ、平均台やトンネルくぐり、ロープを使った壁のぼりなどの障害物に挑みタイムを競いました。出場する子どもだけでなく、応援する父兄からの熱気も加わり、会場は大きな盛り上がりを見せました。

同大会は、伊豆の国スポーツクラブ主催。12月には『第2回こすけ大会』が開催されます。問合せ…社会教育課 ☎055(948)14614



父兄の声援を受け、障害物を必死にくぐり抜ける園児

8/19 市長へ優勝報告 ショートテニス大会で全国優勝

8月1日に東京で開催された第24回全国ショートテニストーナメント大会で、マナーキッズジュニア親子チャレンジプロジェクトテニスクラブ所属（浅井彰浩代表）の小学生たちが優勝などの好結果を残し、19日市長に報告しました。

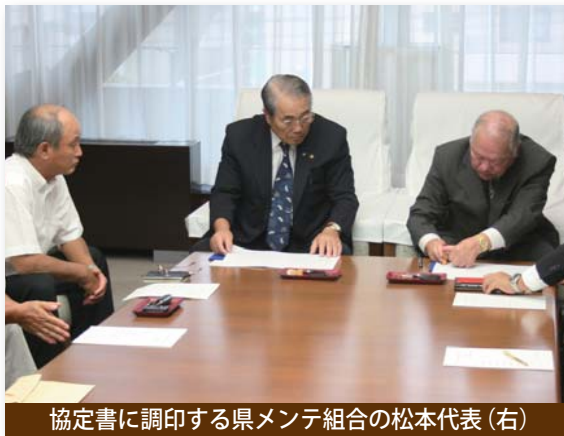
男子の部では、浅井佑一君（葦山小6年）が優勝。女子の部では、山田愛子さん（葦山南小6年）が優勝、安井杏実さん（葦山小6年）が3位という結果でした。

市長は3人の好成績を称え「これからも勉強とテニス、両立しながら頑張ってください」と、今後の活躍にも期待しました。



次は12月の全国大会での活躍を目標に掲げる3人（左から、浅井君、安井さん、山田さん）

8/31 災害時、下水道対応に協力 県メンテ組合と協定



協定書に調印する県メンテ組合の松本代表（右）

市は災害時に、下水道施設の応急対策活動に関する協力協定を、県環境施設メンテナンス協同組合（松本正彦代表理事）と締結しました。

協定書には、大規模な災害発生時に、同組合の人員や機材などを派遣して、下水道施設の緊急点検、緊急修繕など、復旧に協力する内容が盛り込まれました。

市長は「東日本大震災で、災害時に重要なのは復旧までの時間だと痛感。今後、一層連携を深めていくことで災害に備えたい」と述べました。また同日、工業会から組合となった市上下水道協同組合とも災害時の協力協定を再締結しました。

9/15 悲惨な歴史を繰り返さない 戦没者追悼祈念式

終戦から66年が経過した今年、市主催による戦没者追悼祈念式をアクシスカつらぎで開催しました。

この日は、当市の遺族会会員や来賓などおよそ200人が参列。全員による黙祷の後、追悼の言葉が続きました。遺族会を代表し遠藤幸雄会長（奈古谷）は、「悲惨な戦争の苦悩を身を持って体験した世代が少なくなってきた。この悲しみを決して繰り返してはならない」と述べました。

戦争を知らずに育った世代が大半を占める今こそ、私たちは戦争の歴史を後世に伝えていかななくてはなりません。



御霊に対し黙祷する参列者

8/24~ 老人クラブ間で交流 多賀城市民受け入れ事業

市は災害相互応援協定を結ぶ宮城県多賀城市民を対象とした、震災被災者宿泊場所提供事業の第2弾を開始。9月13日まで6泊7日の日程で3回、65人を迎え入れました。

第2弾は、多賀城市老人クラブを通じて参加者を募集。この日は、伊豆の国市老人クラブ連合会葦山支部が交流会を開催し、会員約40人が多賀城市老人クラブの15人を迎えました。交流会は、歌などで親交を深めたほか、震災の教訓として多賀城市の我妻徹さんによる講話が行われました。我妻さんは災害時、正確な情報を得る方法として、トランシーバーの有効性を強調しました。



一緒に歌をうたう参加者（講話をした我妻さん：右上）